

## 第 分科会(全体計画部会)

# 特別活動の各内容を効果的に関連付け、 実践力と人間関係を形成する力を高める特別活動

### 1. 研究内容

(1) 4内容(3内容)のおよび他の教育活動との関連を図ることによって教育効果を高める特別活動はどうあるとよいか。

(2) 実践力、人間関係を形成する力を高める全体計画はどうあるとよいか。

### 2. 提言の要旨

#### < 提言 1 >

特別活動の各内容を小中連携で関連付け、実践力と人間関係を形成する力を高める実践活動

札幌市立北白石小学校  
教頭 井田 敦

#### 提言内容

小中連携の取組は、9年間を見据えた教育活動を行うことになり、子どもたちの成長にとって大変価値が高い。さらに「合築校舎」という特長をいかし、教育課程や年間計画を小中ですり合わせることで特色ある連携に取り組んでいる。

特別活動における連携として、学校行事では合同避難訓練、合唱コンクール交流を行っている。小学校の運動会などで中学校の施設を使用することで活動に広がりが出ている。児童会・生徒会活動では小中合同で「朝のあいさつ運動」に取り組んでいる。クラブ活動では、クラブ設置の際に中学校の部活動にあこがれをもち、意欲や実践につながっている。

教科等における連携としては、年に数回の授業見学会、音楽の時間の授業交流など授業づくりの面でも交流が行われている。また共有スペースが多く、職員室が一つで

子を交流でき、メリットは大変大きい。  
< 提言 2 >

地域との連携を深める特別活動

小樽市立長橋中学校  
教諭 川向 俊之

#### 提言内容

生徒会では3年前から「歌で繋ぐ」を合い言葉として、「歌」を通して生徒の「絆」を繋ぎ、相互に深める活動に力を入れている。特に全校集会や学校の行事、部活動などの諸活動でも積極的に校歌を歌うことで学校全体を盛り上げ、自らの学校の自信と誇りを高める活動を行っている。

文化祭の活動と関連させた昨年度は、地域の老人福祉施設を数カ所訪問し、歌を披露し一緒に合唱することで交流を深めた。「歌」を地域に発信し届けることで、地域の中で支えられていることを生徒自身が直接自覚するとともに地域社会へ積極的に関わろうとする態度や、地域への感謝の心を育むことにつながっている。

ふるさと教育推進事業の一環として、生徒数十名による「潮ねりこみ」への参加の取組をしている。潮ねりこみ音頭の師範の方を指導者として招き学習会を開催し練習を重ねていった。実際に踊ることを通して集団に一体感が生まれ、一つのものをつくりあげる大切さを知ることとなった。生徒一人一人がより広範囲の地域の方々と触れ合い熱い潮ねりこみを行うことで、郷土への帰属意識や声援を全身に受けた満足感、充実感を味わうことができた。

### 3．研究討議

#### < 討議の柱 1 >

4 内容（3 内容）のおよび他の教育活動との関連を図ることによって教育効果を高める特別活動はどうあるとよいか。

特活は学校教育づくりの要である。教科でよい授業ができる学級は、日常生活の中でも子どもをよく育てている。日常的に行われている 4 内容の活動を特別活動として意識していない場合が多い。他の活動と関連を図ることで教育効果が高まることを実感することができる。

交流活動そのものが人間関係を育てることに直結している。こうした特活の意義を他の先生方に伝えていくことが重要。

小中連携は、校長のリーダーシップが大事。学校経営にも大きく関係している。校長先生同士の教育方針のすりあわせも重要になってくる。

連携は先生方の意識と時間の調整が大事。子どもを育てるためには特活を意識的に行っていくことが大事である。

地域とのつながりは切り口が大事。歌でつながるといふ発想が子どもの実態と重なり、効果が上がっている。

#### < 討議の柱 2 >

実践力、人間関係を形成する力を高める全体計画はどうあるとよいか。

全体計画は、まず作成することが必要。どんな活動でどんな成果が上がっていたか、振り返りながら組織的に改善を図っていくことで子どもの力を育てる全体計画になっていく。

教育課程や全体計画を小中ですりあわせる難しさと同時に、中学校には他の 2 小学校との連携にも気を配る難しさもある。望ましい人間関係を形成する力を育てる上で、共に生活することで生まれる先生方の意識の変化は大きい。中学校が小学校の実態を意識してよく見ることで一緒

に育てているという意識が芽生えている。中学生が小学生のあこがれになっていることから日頃の特活の果たす役割が大きいといえる。

生徒会の運営は児童会と違い、リーダーシップも育てていく。先を見通し主体的に動く姿勢が、地域との活動を通して力が伸びてきている。

### 4．指導助言

小中連携の目指すところは、目指す子ども像の共有。15 歳の子ども像を中学校区で共有し、目的や意図を共有しながら具体的な活動を構築していくことが大事である。

生徒指導については、9 年間を通しての指導が必要なため、小中共有の経営案などが必要になる。代表者又は部門別による話し合いを通して職員会議等で共有すべきことである。

全体計画は、学校の地域や保護者、子どもによっても違ってくる。全体計画を生かすためには、教師が共有し可視化し、思いを同じにして取り組む必要がある。特別活動は教科より P D C A が大切。学校は継続性がなくては実践として積み上がっていかない。

この学校に行きたいと思える学校づくりを目指したい。そのためには、全体計画をいかに具体的にできるか経営案にも工夫が必要。教職員がこうしたいという思いがあれば、挑戦する姿は必ず子どもに伝わるものである。

### 5．今後の課題

特活の内容や意義を指導者がしっかりと意識できるように関連付け、意識的に取り組んでいく必要がある。

全体計画を全員が共有していくことで教育効果は高まる。地域や学校の実態に合わせ、見直しを図り継続的に取り組むことが重要である。